

トイレのオールジェンダー利用に関する研究 その2
トランスジェンダーのトイレ利用における現状と課題

正会員 ○日野 晶子* 岩本 健良***
同 高橋 未樹子**

オフィス 公共施設 トランスジェンダー
LGBT 多機能トイレ 男女共用トイレ

1.本研究の目的

本研究は、性自認に関わらず、誰もが安心して快適に利用できるトイレの環境整備をめざしている。先行研究¹⁾ではオフィスに焦点を当て、「トイレの選択肢があること」が最も重要であることや、求められる選択肢等について明らかにした。本報では、前回から5年後の2022年に実施した調査結果をもとに、トランスジェンダー^{注1)}(以下、トランス)の外出先のトイレ利用における現状と課題について報告する。なお、今回はオフィスに加え、駅・ショッピングセンター等の公共施設(以下、公共施設)についても調査した。

2.調査方法および回答状況

前報のモニター調査回答者のうち、表1の条件により抽出したシスジェンダー^{注1)}(以下、シス)計1,000人、トランス計325人に対し、インターネット調査を行った。なお、前回実施したトイレ関連調査では、トランスの回答者をSNS等で補完したため、今回とは母集団の性質が異なる。そのため、前回の調査結果との比較は行わない。

表 1. 調査概要

調査対象	シスジェンダー(シス)	トランスジェンダー(トランス)
調査時期	2022年11月18日~29日(計12日間)	
有効回答者数・年齢	1,000人(男女各500)	325人(FTM50,FTX105,MTX83,MTF87) ^{注2)} 20~59歳
本調査抽出条件	・有職者(専業主婦・主夫,学生,無職は対象外) ・就業する建物にトイレが設置されている ・職場出勤日数:2~3日/週以上(シス),1日/週以上(トランス) ・シスのみ/就業フロア的人数(他社等も含む):30人以上	

3.調査・分析結果

3-1.トランスジェンダーのトイレ利用実態

まず現状を把握するため、トランスがオフィス、公共施設で主に利用しているトイレを尋ねた結果を図1に示す。利用しているトイレの種類はジェンダーにより様々だが、全体では男女別トイレの利用者が最も多く、オフィスでは68.0%、公共施設では62.1%であった。出生時戸籍が女性のトランスであるFTM、FTXでは女性トイレ、同男性のMTF、MTXでは男性トイレを利用している人が最も多く、公共施設よりもオフィスの方がその傾向は強い。オフィスでは戸籍性別のトイレを使わざるを得ない状況が多いと思われる。多機能トイレ^{注3)}(以下、多機能)は、全体ではオフィス13.8%に対し、公共施設は27.4%で13.6

ポイント高い。一方多機能を除く男女共用トイレ(以下、男女共用)では、オフィス16.6%に対し、公共施設は半数の8.3%であった。トランスは、就業フロア人数29人以下が35.1%、10人未満も15.7%を占めたが、それらは比較的小規模な職場の可能性が高く、男女別の一般トイレのみで多機能が設置されていない、或いは男女別がなく男女共用しかない等の状況が考えられる。逆に公共施設の場合は、男女共用は現状多機能が一般的であり、それ以外の男女共用は少ないことが影響していると推察される。

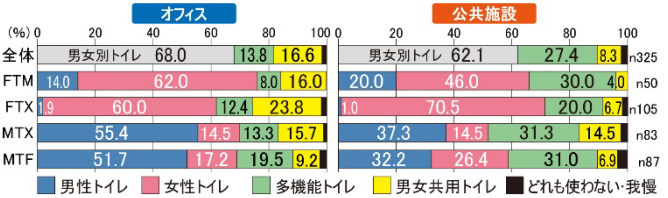


図 1. トランスが主に利用しているトイレの種類

3-2.トイレ利用の実態と希望の一致・不一致状況

次に、利用したいトイレ(希望)を尋ね、その希望がどの程度実現できているかを調べるため、図1の結果(実態)とクロス集計を行った。その結果を図2に示す。まず、シスとトランスを比較する。シスではオフィス、公共施設共に9割前後が男女共に出生時戸籍性別のトイレで実態と希望が一致している。一方トランスは、一致率が低い上に一致するトイレの種類も様々で、ジェンダーによっても異なる。また不一致率は、シスでは数%で男女差もないが、トランスでは3~4割を占めた。ジェンダーによる差もみられ、FTM、FTXよりもMTF、MTXの方が不一致率が高く、MTFはオフィスでは58.6%にのぼる。次に、トランスについてオフィスと公共施設を比較する。出生時戸籍性別トイレでの一致率は、両施設共に全体の約3割であった。ジェンダー別でも両施設間の大きな違いはみられない。一方自認性別トイレではFTM、MTF共に公共施設の方が約10.0ポイント高く、18.0%、20.7%であった。多機能は、全体ではオフィス9.2%に対し、公共施設が19.7%で10.5ポイント高いが、男女共用は10.8%、6.5%で公共施設が4.3ポイント低く、利用実態と同様の傾向がみられた。不一致率は、オフィス42.2%、公共施設29.5%で12.7ポイントの差があり、オフィスの方がより深刻な状況がうかがえる。これは、特定の人が利用するオ

フィスに比べ、不特定多数の人が利用する公共施設の方がトイレで顔見知り遭遇する確率は低いため、「人の目」が気になりにくいことも要因のひとつと考えられる。

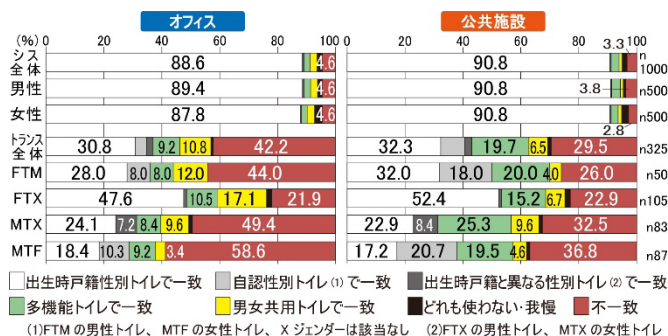


図2. トイレ利用の実態と希望 一致・不一致状況

3-3. 利用したくても利用できないトイレの種類

さらに、より具体的な課題を探るために、希望するトイレが利用できていない人の割合を、トイレの種類別に算出した結果を図3に示す。どのトイレをどの程度利用できていないかはジェンダーにより異なるが、自認性別トイレは、FTMよりもMTFの方が利用できていない人が多く、オフィス28.7%、公共施設17.2%であった。出生時戸籍が女性のFTMが男性トイレを利用するよりも、同男性のMTFが女性トイレを利用する方がハードルが高いと推察される。また、オフィスで自認性別トイレを利用するにはトイレ以前に自認性別で就労する必要がある、さらに周囲の理解が求められる等の困難が伴うと考えられる。

多機能は、全体ではオフィス19.1%、公共施設9.8%で9.3ポイントの差がある。実態と希望の不一致理由（自由回答）では、オフィスの場合は「多機能トイレがない」が目立ち、ある場合も「自席から遠い」「職員用はない」等、設置されていても利用できない状況が伺えた。公共施設の場合は、「数が少ない」に加え、それ故に「遠慮してしまう」「そこしか使えない人に迷惑をかけてしまう」等がみられた。設置数が少ないために物理的にも心理的にも利用しづらい状況がうかがえる。また、両施設共「変な目で見られそう」「他人の目が気になる」といった、周囲の理解が問題となっているケースもみられた。

男女共用は、全体ではオフィス7.1%、公共施設6.5%で同程度だが、いずれも多機能より低い。多機能との差は公共施設の3.3ポイントよりオフィスの方が大きく12.0ポイントであり、オフィスでは男女共用よりも多機能トイレを利用したくても利用できない状況がうかがえる。公共施設では、男女共用を利用できない理由として「公共施設にはない」が目立ち、同トイレを希望する理由には、「安心感がある」「緊張しなくてよい」「多機能トイレは気が引ける」等がみられた。なお、不一致のシス女性で

男女共用を希望する人は両施設共0人で、オフィスでは23人中18人が女性トイレを希望しており、不一致の理由は「職場に男女共用しかない」「女性用がない」が目立った。

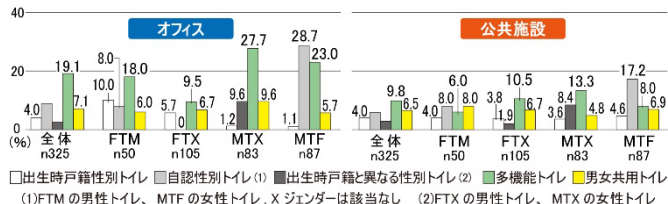


図3. 希望するトイレが利用できていない人の割合

4. まとめ

調査の結果、以下のことがわかった。

- 1) トランスが利用するトイレの種類は、オフィス、公共施設共に様々で、希望と一致するトイレも様々である。
- 2) 実態と希望が不一致のトランスはオフィスで4割超、公共施設で約3割。不一致率は出生時戸籍が女性のトランスより同男性のトランスの方が高く、MTFが最も高い。
- 3) オフィス、公共施設共に、トランス全体では多機能トイレの利用が課題である。オフィスでは同トイレの設置有無や利用環境、公共施設では数の不足とそれに伴う利用への遠慮が背景にあると推察される。また、MTFでは自認性別トイレの利用も大きな課題。自認性別での就労や周囲の理解が鍵となることが推察される。
- 4) 男女共用トイレは、公共施設では安心感や多機能トイレ利用への気兼ねから希望するトランスがいるが、設置数が少ないため利用できない状況がある。なおオフィスでは、男女共用しかないため女性トイレを利用したくてもできないというシス女性も存在する。
- 5) オフィス、公共施設共に、トイレの選択肢を設けることの重要性が改めて認識された。男女別トイレの他、オフィスではまずは多機能トイレ、公共施設では多機能トイレに加え、男女共用トイレの設置が求められる。男女共用トイレは、異性介助・同伴の場面でも有効である²⁾。また、トランスのトイレ利用について知り、理解することも必要だと考えられる。

今後、トイレ利用ストレス、多機能トイレ利用状況、男女共用トイレの利用意向や配置計画等の分析を進める。

注1) シスジェンダー、トランスジェンダーについては本研究その1を参照。
 注2) トランスジェンダーの分析軸を、出生時戸籍性別(Female, Male)と性自認(Female, Male, X-gender)の組合せにより4つに区分。詳細はその1参照。
 注3) 調査票では「車椅子使用者を始め、さまざまな人が利用できるように配慮したトイレのことで、男女共用が一般的」と説明。

参考文献

- 1) 高橋未樹子, 日野晶子他, 「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究」(その1-6), 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2018-2020年
- 2) 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団「男女共用お手洗 Allgender toilet について」https://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/allgender_toilet/

*株式会社 LIXIL

**コマニー株式会社 博士 (人間環境デザイン学)

***金沢大学 人文学類 准教授 文修

*LIXIL Corporation

**COMANY INC. Dr. Human Environment Design

**Assoc.Prof, School of Humanities, Kanazawa University, M.A